

未来・助動詞

【主な学習内容】

- ◎未来の文→未来表現 be going to と助動詞 will の違いについて復習し、英語表現の理解を深める。
- ◎いろいろな助動詞→助動詞の意味と書き換え表現、未来の助動詞を用いた慣用的な疑問表現について学ぶ。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|---|---|
| <p>1 未来の文</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単純未来…意志に無関係な自然のなりゆきで、「～するでしょう」という意味を表す。 ② 意志未来…未来へ向けての今現在の意志で、「～するつもりです」という意味を表す。 <p>💡 英語における未来表現 →動詞の形として現在形と過去形はあるが、未来形はない。これから起こることを表す場合は、助動詞の will や be going to を使って、未来を表すことになる。</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた肯定文→動詞の直前に助動詞 will をおく。動詞は原形。</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた否定文→助動詞 will の直後に not をおく。短縮形は won't.</p> <p>☆ 未来を表す助動詞 will を用いた疑問文→助動詞 will を文頭(主語の直前)におく。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 確定的な未来…理由や兆候があつて、そうなることがはっきりしている場合に用いる。 ② 意図や予定…「～するつもりです」と前もって計画していたことを表す場合に用いる。 <p>💡 助動詞 will の意志未来は、前もっての計画性がない、その場で急に決断した意志を表す。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の肯定文→ be going to の直後の動詞は原形になる。</p> <p>💡 be 動詞は主語の人称や単数複数の違いに応じて、am・are・is を使い分ける。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の否定文→ be 動詞の直後に not をおく。</p> <p>☆ 未来を表す be going to の Yes / No 疑問文… be 動詞を文頭(主語の直前)におく。</p> | <p>●主語 + be 動詞の部分は、短縮形の使用も可である。</p> |
| <p>2 いろいろな助動詞</p> <p>☆ 助動詞 can の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 能力・可能…「～できる」 ② 許可…「～してもよい」 <p>☆ 助動詞 could …助動詞 can の過去形</p> <p>☆ be able to の意味…能力・可能「～することができる[できた]」</p> <p>💡 「～することができるだろう」→[will] + [be able to] + [動詞の原形]</p> <p>☆ 助動詞 may の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 許可…「～してもよい」 ② 推量…「～かもしれない」 <p>☆ 助動詞 must の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 義務…「～しなければならない」 ② 推量…「～にちがいない」 ③ 禁止…「～してはいけない」(否定文) <p>☆ have to の意味</p> <p>💡 助動詞 must とほぼ同じ意味。to の直後は動詞の原形。主語が3人称単数の場合は has to になる。</p> <p>💡 don't have to ～…「～する必要はない」</p> <p>💡 過去や未来の文の表し方</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 過去…「～しなければならないかった」→[had to] (must には過去形がない) ② 未来…「～しなければならないだろう」→[will have to] (will must は不可) <p>☆ Shall I ～? の意味…提案「(私が)～しましょうか」</p> <p>☆ Shall we ～? の意味…勧誘「(いっしょに)～しましょうか」</p> <p>☆ Will you ～? の意味</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 未来時制の疑問文 ② 依頼…「～していただけますか」 ③ 勧誘…「～しませんか」→ Won't you ～? の形でも用いられる。 <p>☆ would like to …「～したいのですが」</p> <p>☆ should …「～すべきである」</p> <p>☆ had better …「～したほうがよい」</p> | <p>● couldn't = could not の短縮形</p> <p>● Can you ～? [依頼] …「～していただけますか」 Could you ～? [丁寧な依頼] …「～していただけますか」</p> <p>● will can のように助動詞を2つ並べることはできない。</p> <p>● mustn't = must not の短縮形</p> <p>● You must not ～. は、否定命令文 Don't ～. に書き換えが可能である。</p> <p>● Shall we ～? の文 = Let's ～.(～しましょう)</p> |

2

不定詞・動名詞

◆指導ページ P.6～9◆

【主な学習内容】

- ◎不定詞→名詞的、副詞的、形容詞的の基本3用法を確認し、不定詞の応用への備えとする。
◎動名詞→動名詞も不定詞も目的語にとれる動詞で、特に、意味が異なるものには注意する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|--|
| <p>① 不定詞〈to + 動詞の原形〉</p> <p>☆ 不定詞とは…[to] + [動詞の原形]の形をとり、名詞的用法・副詞的用法・形容詞的用法の3つの用法がある。</p> <p>☆ 不定詞の名詞的用法 意味と用法…「～すること」の意味で、動詞の目的語、文の主語や補語になる。</p> <p>☆ 名詞的用法の訳し方…直前の述語動詞とのつながりにより、より自然な日本語に訳すこと。</p> <p>① like + to 不定詞…「～することを好む」→「～するのが好きだ」 ② want + to 不定詞…「～することを欲する」→「～したい、～したがつている」 ③ begin(start) + to 不定詞…「～することを始める」→「～し始める」 ④ try + to 不定詞…「～することを試みる」→「～しようとする」</p> <p>💡 不定詞の否定形…not + to 不定詞 = 「～しないこと」</p> <p>☆ 主語になる不定詞…主語になる不定詞は3人称単数扱いになる。</p> <p>☆ 補語になる不定詞…be 動詞の直後に to 不定詞をおいて「すること」の意味を表す。 💡 補語とは…「AはBです。」[A is B.]の文でBにあたる語。主語の内容を補足説明する。</p> <p>☆ 不定詞の副詞的用法[動作の目的を表す不定詞] 意味と用法…「～するために、～しに」の意味で目的を表す。前方の動詞を修飾する。</p> <p>☆ 不定詞の副詞的用法[感情の原因を表す不定詞] 意味と用法…感情を表す形容詞の直後に to 不定詞をおき、「～して」という感情の原因を表す。 💡 名詞的用法と副詞的用法の見分け方</p> <p>① 不定詞の名詞的用法→文全体の目的語・補語・主語になる。文全体に不可欠な成分である。 ② 不定詞の副詞的用法→文全体の中の修飾語句にあたる。不定詞句の直前までで文は完結する。</p> <p>☆ 不定詞の形容詞的用法 意味と用法…「～するための、～すべき」の意味で用いられる。この用法は、[名詞] + [不定詞]の形で後置修飾し、1つの名詞句を形成する。</p> | <p>●不定詞は、主語や時制と無関係に、常に[to] + [動詞の原形]。</p> <p>●不定詞を導くその他の表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ would like + to 不定詞 …できれば～したいのですが。 (want + to 不定詞の丁寧表現) ・ need + to 不定詞 …～する必要がある。 <p>●～ thing(代名詞) + 形容詞 + 不定詞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ something cold to drink …何か冷たい飲みもの |
| <p>② 動名詞〈動詞の原形 + ing〉</p> <p>☆ 動名詞とは…「～すること」の意味を表す[動詞のing形]のこと。名詞と同じ働きをする。</p> <p>① 動詞の目的語になる動名詞 ② 主語や補語になる動名詞…動名詞が主語の場合、3人称単数として扱う。 ③ 前置詞のあとにくる動名詞…動名詞は前置詞の後におけるが、不定詞はおけない。</p> | <p>●動名詞の作り方 →進行形で使う[動詞のing形]と作り方は同じである。</p> |
| <p>③ 不定詞と動名詞</p> <p>① 不定詞だけを目的語にとる動詞 … want / hope / wish / decide / promise / expect など</p> <p>② 動名詞だけを目的語にとる動詞 … enjoy / stop / finish / practice / mind など</p> <p>③ 動名詞も不定詞も目的語にとる動詞</p> <p>I 意味が同じもの… like / begin / start / love / continue など [書き換え可能] II 意味が異なるもの… remember / forget / try など [書き換え不可能]</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ remember + 動名詞 「～したことを覚えている」 remember + to 不定詞 「忘れずに～する」 |

3

比較

◆指導ページ P.10～13◆

【主な学習内容】

- ◎原級を用いた同等比較の文→AとBを比較して、程度や数量が同じであることを表す場合の表現方法について確認する。
◎比較級・最上級を用いた文→比較級・最上級の作り方、thanを用いた比較構文、最上級を用いた構文や表現を確認する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|---|
| <p>① 比較級・最上級</p> <p>☆ 規則変化による比較級</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ふつう→er, estをつける。 ② 語尾がeのとき→r, stをつける。 ③ 語尾が[子音字+y]のとき→yをiにかえてer, estをつける。 ④ 語尾が[短母音+子音字]のとき→語尾の子音字を重ねてer, estをつける。 <p>☆ 不規則変化による比較級・最上級</p> <ol style="list-style-type: none"> ① good(よい), well(健康な, 上手に)→better, best ② bad(悪い), ill(病気の)→worse, worst ③ many(多数の), much(多量の)→more, most ④ little(少量の)→less, least <p>☆ more・mostを用いる…3音節以上。語末がing / ful / ly / lar / ous / tantなど。</p> | <p>● more・mostを用いる語彙例</p> <ol style="list-style-type: none"> ① interesting…面白い ② beautiful…美しい ③ useful…役に立つ ④ carefully…注意深く ⑤ quickly…すばやく ⑥ slowly…ゆっくり ⑦ popular…人気のある ⑧ famous…有名な ⑨ important…重要な ⑩ difficult…難しい |
| <p>② <as + 原級 + as ...>の文</p> <p>☆ A is as ~ as B…「AはBと同じくらい～」の「～」の部分に形容詞や副詞がくる。 ・トムはボブと同じくらいの背の高さです。 → Tom is as tall as Bob. [形容詞 tall の原級を用いた be 動詞の文]</p> <p>☆ A is not as ~ as B…「AはBほど～でない」という意味で、「同じくらい～でない」という意味ではない。 ・私の兄は私の父ほど背が高くありません。 → My brother is not as tall as my father. [私の父の方が背の高いことを表している]</p> | <p>●原級とは、活用変化していない形容詞や副詞のものの形のこと。</p> <p>●— times as ~ as ... …「…の—倍～」</p> |
| <p>③ 比較級の文「…より～」・④ 最上級の文「いちばん～」</p> <p>☆ thanを用いた比較構文…意味は「AはBより～」で、形は[A…比較級+ than B.]となる。</p> <p>☆ 比較級を修飾する表現</p> <p>・あなたの自転車は私のものよりずっとよいです。[ずっと～] → Your bike is <u>much</u> better than mine.</p> <p>☆ 最上級を用いた比較構文…3つ以上の対象を比べて、「Aは…の中で最も～」の意味を表す文。構文形式は、[A + 動詞 + the + 最上級 + of (in) ….]で表す。副詞の最上級の文ではtheをつけないこともある。</p> <p>☆ of と in の使い分け</p> <ol style="list-style-type: none"> ① of…直後に複数の人やものを表す語句 of the four / of all the boys / of us all ② in…直後に場所/集団/範囲を表す語句 in our city / in his class / in my family <p>☆ 最上級を用いた重要表現…「最も～な…のうちの1つ」</p> <p>・京都は世界で最も美しい都市の1つです。 → Kyoto is one of the most beautiful <u>cities</u> in the world.</p> | <p>●原級を強調する場合はveryをつけたのに対して、比較級を強調する場合はmuchをつける。 ・とても古い…<u>very</u> old ・よりずっと古い…<u>much</u> older</p> <p>●「最も～な…のうちの1つ」 …one of the + 最上級 + 名詞の複数形</p> |
| <p>⑤ 疑問詞で始まる疑問文</p> <p>☆ 比較級を用いる疑問詞で始まる疑問文…「AとBでは、どちらのほうが～か。」</p> <p>・2月と3月では、どちらのほうが長いですか。— 3月です。 → Which is longer, February or March? — March is.</p> <p>・あなたとトムでは、どちらのほうが速く走れますか。— 私です。 → Who can run faster, you or Tom? — I can.</p> <p>☆ 最上級を用いる疑問詞で始まる疑問文…「どれ(誰/何)が最も～か。」</p> <p>・全部の中でどれが最も新しいですか。→ Which is the newest of all?</p> | <p>●人を比べる場合はWhoを使う。</p> <p>●・Which…限定範囲から選択 ・What…不特定対象から選択</p> |

【主な学習内容】

- ◎ SV・SVC・SVO の文→それぞれの文構造の仕組みと相違点を明らかにして英文の理解を深める。
◎ SVOO・SVOC の文→文構造の語順、特に、SVOO と SVOC との見分け方について習得する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|---|
| <p>① 文の要素・文構造</p> <p>☆ 文の4要素</p> <p>① 主語[Subject]→「S」と表記する。英文の基本構造 [A] [X] [B] の [A] に相当する。 ② 動詞[Verb]→「V」と表記する。英文の基本構造 [A] [X] [B] の [X] に相当する。 ③ 補語[Complement]→「C」と表記する。「[A] は [B] です([A]=[B])」という文の [B] に相当する。 ④ 目的語[Object]→「O」と表記する。「[A] は [B] を～する」という文の [B] に相当する。 ☀ 修飾語句→4つの文の要素以外の語句は、修飾語句として扱う。形容詞句と副詞句がある。 ☆ 5つの文構造…英文は、4つの文の要素の組み合わせによって5つの文構造に分類される。</p> | |
| <p>② SV・SVC・SVO の文</p> <p>☆ SV の文とは…主語と動詞のみで成り立つ文構造。動詞の直後にさまざまな修飾語句(副詞句)がつくことが多い。</p> <p>・私たちは日曜日に海で泳ぎます。→ We swim in the sea on Sunday. [一般動詞の文] ・彼女は勉強するためにアメリカにいます。→ She is in America to study. [be 動詞の文]</p> <p>☆ SVC の文とは…主語と動詞のほかに補語を必要とする文構造。補語は主語の内容や状態を説明する語のことで、名詞・代名詞・不定詞・動名詞などの名詞相当語句に加え形容詞も補語になる。</p> <p>・彼女は英語の先生です。→ She is an English teacher. [be 動詞の SVC の文] ・彼は幸せそうに見えます。→ He looks happy. [一般動詞の SVC の文]</p> <p>☆ SVO の文とは…主語と動詞と目的語によって成り立つ文構造。目的語は動作の作用が及ぶ対象を表す語のことで、名詞・代名詞・不定詞・動名詞などの名詞相当語句が目的語になる。</p> <p>・彼女はとてもよく彼を知っています。→ She knows him very well. ・彼は写真を撮ることが大好きです。→ He likes taking pictures very much.</p> | <p>● 「in the sea」も「on Sunday」も修飾語句(副詞句)である。</p> <p>● SV の文での be 動詞の意味は「～にいる(ある)」になる。</p> <p>● S 「She」= C 「an English teacher」 ● S 「He」= C 「happy」</p> <p>● O 「him」。 「very well」は修飾語句。</p> <p>● O 「taking pictures」。 「very much」は修飾語句。</p> |
| <p>③ SVOO の文</p> <p>☆ SVOO の文とは…動詞に前置詞を介さず2つの目的語を連続させる文構造。語順は、[主語+動詞+間接目的語(人)+直接目的語(もの)]になる。</p> <p>・彼は私にその本をくれました。→ He gave me the book. ・彼女は私たちにこれらのりんごを買ってくれました。→ She bought us these apples.</p> <p>☆ SVOO から SVO への書き換え</p> <p>① 前置詞 to をとる動詞… teach / tell / sell / show / send / lend / give ② 前置詞 for をとる動詞… get / make / buy / find ③ 前置詞 of をとる動詞… ask</p> | <p>● 間接目的語には、「人」がくる場合が多いが、「動物」などがくる場合もある。</p> |
| <p>④ SVOC の文</p> <p>☆ SVOC の文とは…動詞に前置詞を介さず目的語と補語を連続させる文構造。語順は、[主語+動詞+目的語+補語]になる。この文構造の補語は、直前の目的語の内容を説明するためのもので、O=C の関係性を有する。</p> <p>・私たちは彼をボブと呼びます。→ We call him Bob. [him = Bob(名詞)] ・その知らせは彼女を悲しませました。→ The news made her sad. [her = sad(形容詞)]</p> <p>☆ SVOC の文と SVOO の文の見分け方</p> <p>→動詞の直後の目的語のあとの語が、その目的語とイコールの関係になるかどうかで見分ける。</p> | <p>● SVOC の補語のことを、目的格補語という。SVC の補語のことを、主格補語という。</p> |

【主な学習内容】

- ◎等位接続詞→語・句・節を対等の関係で結ぶ等位接続詞の意味と用法を確認する。
- ◎従属接続詞→副詞節を導き、時や条件を表す従属接続詞の意味と用法を確認する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|--|
| <p>① 等位接続詞 and・or・but・so</p> <p>☆ 等位接続詞とは…語と語、句と句、節と節をたがいに対等の関係で結ぶ接続詞。</p> <p>① and = 「～と…」 「～, そして(それから)…」 [物事の並列や継起を表す] ♪ 同じ語を and で結んで、繰り返しや強調を表す。 ・私たちは歩き続けました。→ We <u>walked and walked.</u></p> <p>② or = 「～か…」 「～, または(それとも)…」 [物事についての選択を示す]</p> <p>③ but = 「～, しかし(だが)…」 [予想と反対の内容を結ぶ]</p> <p>④ so = 「～, それで(だから)…」 [原因と結果の順接関係を表す]</p> <p>☆ 命令文, and[or]～.</p> <p>① 命令文, and～. = 「…しなさい, そうすれば～」</p> <p>② 命令文, or～. = 「…しなさい, さもないと～」</p> <p>☆ 連語の等位接続詞</p> <p>① both A and B = 「A も B も両方とも」 ※主語のとき, 複数扱いになる。</p> <p>② either A or B = 「A か B のどちらか」 ※主語のとき, 動詞は B に合わせる。</p> <p>③ between A and B = 「A と B の間に」</p> <p>④ not only A but also B = 「A だけでなく B も」 ※主語のとき, 動詞は B に合わせる。</p> <p>⑤ not A but B = 「A ではなく B」</p> | <p>●句とは…</p> <p>2語以上が集まってまとまった意味を表す語群で, [主語+動詞]の関係を含まないもの。名詞句・副詞句・形容詞句がある。</p> <p>●節とは…</p> <p>2語以上が集まってまとまった意味を表す語群で, [主語+動詞]の関係を含むもの。名詞節・副詞節・形容詞節がある。</p> <p>●A と B と C</p> <p>…語句を3つ以上並べて「A と B と C」と言うときは, [A, B and C]の形で表す。</p> <p>●命令文, and[or]～. の文は, 接続詞 if を用いて書き換え可能。</p> |
| <p>② 時・条件・理由・譲歩を表す接続詞</p> <p>☆ 従属接続詞とは…節と節を, 「主節」(中心となる節)と「従属節」(副詞節や名詞節)の関係で結ぶ接続詞。従属接続詞は時・条件・理由・譲歩を表す副詞節(主節を修飾する節)や名詞の働きをする名詞節(主節の動詞の目的語になる節)を導く。</p> <p>☆ 副詞節を導く接続詞…[従属節(接続詞+主語+動詞～), 主節(主語+動詞…)]の形か, [主節(主語+動詞…), 従属節(接続詞+主語+動詞～)]の形になる。</p> <p>① 時を表す接続詞 = I 「～するとき」… when II 「～する間」… while III 「～する前に」… before IV 「～したあとに」… after V 「～するときまでに」… till / until VI 「～して以来」… since</p> <p>② 条件を表す接続詞 = 「もし～ならば」… if</p> <p>③ 理由を表す接続詞 = 「～なので(～だから)」… because</p> <p>④ 譲歩を表す接続詞 = 「～だけれども」… though / although</p> <p>♪ 接続詞 as の用法… 「～するとき」「～しながら」「～なので」「～するにつれて」「～のように」</p> <p>☆ 連語の従属接続詞</p> <p>① as soon as ～ = 「～するとすぐに」 ※副詞節は主節の前にもあとにもくる。</p> <p>② so ～ that … = 「とても～なので…」 ※so の直後に形容詞(副詞), that の直後は節。</p> | <p>●連語の等位接続詞を主語で用いる場合には, あとにくる動詞の形に注意する。</p> <p>●従属節が先行する場合, →コンマが必要になる。 主節が文頭にある場合, →コンマは不要になる。</p> <p>●条件を表す副詞節では, 内容が未来でも動詞は現在形で表す。可能性のある仮定に限る。</p> |
| <p>③ 接続詞 that</p> <p>☆ 意味と用法…接続詞 that は「～ということ」の意味を表す。接続詞 that が導く節は名詞節になる。</p> <p>・彼は私が早く起きたことを知りません。…(主節)彼は知りません + (従属節)私が早く起きたこと → He doesn't know that I got up early. [that 節 = 述語動詞 know の目的語(名詞節)]</p> <p>💡 「～ではないと思う」と表すときは, ふつう主節の think を否定し, that 節は肯定文で表す。</p> <p>💡 形容詞 + that 節… that 節は形容詞の直後におくこともできる。</p> <p>☆ 時制の一致とは…主節の動詞が過去形のとき, 従属節の動詞や助動詞も過去形にする言語規制。日本語に訳すときは, 主節だけを過去で訳し, 従属節は過去として訳さない。</p> | <p>●that 節をともなう形容詞</p> <p>① ～ではないかと心配する … be afraid that ～</p> <p>② ～をうれしく思う … be glad that ～</p> <p>③ ～を残念(気の毒)に思う … be sorry that ～</p> <p>④ ～を確信している … be sure that ～</p> |

6A

受動態

◆指導ページ P.22 ~ 25 ◆

【主な学習内容】

- ◎受動態の形と意味→受動態と能動態の相違点、否定文と疑問文の作り方を確認する。
 ◎注意すべき受動態→SVOOの文の受動態、byを使わない受動態について習得する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|--|
| <p>1 受動態の文</p> <p>☆ 態とは…ある事柄について、誰(何)を中心に述べるかによって動詞の形が変わること。</p> <p>① 能動態…動作をするものを主語にして、「～が…する」という関係を表す。 ② 受動態…動作を受けるものを主語にして、「～が…される」という関係を表す。</p> <p>☆ 受動態における動詞の形→be動詞+過去分詞</p> <p>☆ 過去分詞とは…動詞の語形変化形(原形・現在形・過去形・現在分詞など)の1つで、現在完了の文や受動態の文で用いる。使う動詞が規則変化か、不規則変化かに注意する。</p> <p>① 規則変化…規則動詞の過去分詞は、過去形と同じく原形の語尾にedやdをつける。 ② 不規則変化…不規則動詞の過去分詞は、不規則に変化する。4つの類型に分けられる。</p> <p>☆ 現在時制の受動態…be動詞[am / are / is]+過去分詞</p> <p>☆ 過去時制の受動態…be動詞[was / were]+過去分詞</p> <p>☆ by + 行為者…受動態の文において、動作をするもの(行為者)を示す場合、be動詞+過去分詞の後方に[by + 行為者]をおく。</p> | <p>●受動態の文での副詞の位置 …頻度を表す副詞は、be動詞と過去分詞の間におく。</p> <p>●動作をするものを言う必要がないときは、by～は省略される。</p> |
| <p>2 受動態の否定文・疑問文</p> <p>☆ 否定文の表し方→be動詞+not+過去分詞</p> <p>☆ 否定語句が受動態の文の主語になる場合 ・私たちの教室には花がまったく見られませんでした。 → No flowers were seen in our classroom.</p> <p>☆ Yes / No 疑問文の表し方とその答え方→be動詞+主語+過去分詞～？</p> <p>☆ 疑問詞で始まる疑問文の表し方とその答え方</p> <p>① 疑問詞が主語でない疑問文…疑問詞+be動詞+主語+過去分詞～？ ② 疑問詞が主語である疑問文…疑問詞+be動詞+過去分詞～？</p> | <p>●否定語句とは… nothing や no + 名詞など</p> |
| <p>3 注意すべき受動態</p> <p>☆ SVOOの受動態…目的語が2つある文(SVOO)は、ふつう「人」と「もの」のそれぞれの目的語を主語とした2通りの受動態を作ることができる。</p> <p>・私のおじは ①私に ②この時計を くれました。 → My uncle gave ① me ② this watch. [能動態]</p> <p>① 人を主語にした受動態の文…私は私のおじにこの時計をもらいました。 → I was given this watch by my uncle.</p> <p>② ものを主語にした受動態の文…この時計は私のおじが私にくれたものです。 → This watch was given (to) me by my uncle.</p> <p>💡 人を主語にした受動態の文が不自然になる場合…書き換え文が、SVO + for + 人になる文。</p> <p>☆ be動詞+過去分詞のあとにby + 行為者とは異なる前置詞を用いた表現がある。</p> <p>① ～に知られている … be known to ~ ② ～に興味がある … be interested in ~ ③ ～に驚く … be surprised at ~ ④ ～でおおわれている … be covered with ~ ⑤ ～でいっぱいだ … be filled with ~ ⑥ ～が気に入る、～を喜ぶ … be pleased with ~ ⑦ ～に満足する … be satisfied with ~ ⑧ ～で混んでいる … be crowded with ~</p> | <p>●toは省略できる。</p> <p>●SVO + for + 人になる動詞 … get / make / buy / find</p> <p>●be made + 前置詞 → be made from …(原料)から作られる → be made of …(材料)できている</p> |

6B

現在完了

◆指導ページ P.26 ~ 29 ◆

【主な学習内容】

- ◎継続を表す現在完了→継続を表す用法で用いられる副詞句を中心に、現在完了の継続用法について習得する。
◎経験を表す現在完了→経験を表す用法で用いられる副詞句を中心に、現在完了の経験用法について習得する。

| 学習内容 | 補足・留意事項など |
|--|--|
| <p>① 継続を表す現在完了</p> <p>☆ 継続を表す用法…「(ずっと)~している」「(ずっと)~である」という意味で、過去に始まった動作や状態が現在もなお継続中であることを表す、現在完了の用法の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は10年前にここに住んでいました。[過去](過去の事実のみ→現在どうであるかは不明) → I lived here ten years ago. ・私は今ここに住んでいます。[現在](現在の状況のみ→過去どうであったかは不明) → I live here now. ・私は10年間ずっとここに住んでいます。[現在完了](過去から現在まで同じ状態が続いている) → I have lived here for ten years. <p>☆ 継続を表す用法で用いられる副詞句</p> <ol style="list-style-type: none"> ① for + 期間を表す語句… for a week(1週間) for a long time(長い間) ② since + 過去のある時を表す語句や節… since yesterday(昨日から) ③ その他の副詞句… this week(今週ずっと) all day(1日中) today(今日) <p>☆ 否定文の表し方→ have (has) の直後に not をおいて、[have (has) not + 過去分詞] の形で表す。</p> <p>☆ 疑問文の表し方と答え方</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Yes / No 疑問文→ have (has) を主語の直前に出して、[Have (Has) + 主語 + 過去分詞 ~ ?] の形で表す。 ② 継続期間をたずねる疑問詞で始まる疑問文→ How long + have (has) + 主語 + 過去分詞 ~ ? | <p>●主語 + have [has] の短縮形</p> <p>I have → I've you have → you've he [she] has → he's [she's]</p> <p>● have not の短縮形 → haven't</p> <p>has not の短縮形 → hasn't</p> |
| <p>② 経験を表す現在完了</p> <p>☆ 経験を表す用法…「(今までに)~したことがある」という意味で、過去の出来事を経験的知識として今現在の時点から追認していることを表す、現在完了の1用法である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は先月京都を訪れました。[過去に~したという事実] → I visited Kyoto last month.[過去] ・私は以前京都を訪れたことがあります。[現在までの経験] → I have visited Kyoto before.[現在完了] <p>☆ 経験を表す用法で用いられる副詞句…回数や頻度を表す語句がよく用いられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 1文の最後尾におくもの… before(以前) once(1度) twice(2度) ~ times(~回) ② 過去分詞の直前におくもの… often(しばしば) sometimes(ときどき) <p>☆ 過去分詞 been を用いた連語表現</p> <ol style="list-style-type: none"> ① have (has) been to … 「~へ行ったことがある」[経験] ② have (has) been in … 「~にいたことがある」[経験] 「(ずっと)~にいる」[継続] <p>☆ 否定文の表し方…現在完了の否定文はふつう not を用いるが、特に経験を表す文では never を用いることが多い。「1度も~したことがない」という意味を表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は1度も彼に会ったことはありません。→ I have never seen him. <p>☆ 疑問文の表し方と答え方…「(かつて、今までに)~したことがありますか」の疑問文には、ever(今までに)を用いる。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① Yes / No 疑問文… have (has) を主語の直前に出し、[Have (Has) + 主語 + ever + 過去分詞] の形に。 <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは今までに寿司を食べたことがありますか。→ Have you ever eaten sushi? ・はい、あります。/いいえ、ありません。 → Yes, I have. / No, I haven't. [No, I never have.(いいえ、1度もありません。)] ② 経験の回数をたずねる疑問詞で始まる疑問文… How often + have (has) + 主語 + 過去分詞 ~ ? <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは何回その本を読んだことがありますか。 → How often (How many times) have you read the book? ・私は3回それを読んだことがあります。 → I have read it three times. [Three times.(短く答えてもよい)] | <p>● have (has) been there → there は単独の副詞なので、前置詞 to や in は不必要。</p> <p>● never も、過去分詞の直前に。</p> <p>● ever も、過去分詞の直前に。</p> <p>● No, I never have. → never の位置に注意する。</p> <p>● How often ~ ? = How many times ~ ?</p> |